

第5回大阪PCB廃棄物処理事業監視部会 会議要旨

1 日 時 平成27年9月15日(火) 午前9時45分～午前11時38分

2 場 所 此花会館3階 大ホール

3 出席者

(外部有識者)

上野 仁(摂南大学 教授)

大藤 さとこ(大阪市立大学大学院医学研究科 准教授)

中地 重晴(熊本学園大学 教授)

水谷 聡(大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

岩井 政人(此花区地域振興会 副会長)

神谷 和代(此花区公害問題対策協議会 常任理事)

(環境省)

角倉 一郎 廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課長

中野 哲哉 廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課長補佐

(中間貯蔵・環境安全事業株式会社)

東事業部長、湯本営業部営業企画課長、油井大阪PCB処理事業所長、

土田大阪PCB処理事業所副所長

(環境局)

岩橋環境管理部長、有門産業廃棄物規制担当課長、谷野産業廃棄物規制担当課長代理

(部会構成員)

別紙「第5回大阪PCB廃棄物処理事業監視部会出席者名簿」参照

4 議 題

(1) 大阪PCB廃棄物処理事業の進捗について

(2) 環境モニタリング調査について

(3) PCB廃棄物処理基本計画に基づく取組の進捗状況と今後の課題等について

(4) その他

5 議事要旨

- (1) 中間貯蔵・環境安全事業株式会社（以下「JESCO」という。）から大阪PCB廃棄物処理事業の操業状況について説明があり次の意見等があった。

〈意見等の概要〉

(外部有識者) エリア間移動による効率的な処理の推進で、今年度から北海道と豊田PCB処理事業所エリアからコンデンサがくるが、これの処理性は大丈夫なのか。また、小型電気機器だが、P10の注意書きで安定器・汚染物は北九州事業所に移動するが、そのうちのこれ重量で分けているのか。要はコンデンサ充填物だけ取り出したものなのかどうか。それと東棟のほう、ベンゼンの濃度が最近はこの2年ほど下がっているが、何か対策とかされたのか。

(JESCO) まず、特殊コンデンサ、これは中身としては炭化コンデンサで使用中にコンデンサが何らかの原因でショートして、缶体が爆発したというようなものがある。大阪PCB処理事業所ではVTRで処理をする。窯に入れて400度以上で熱を加えてPCBを揮発させるという処理方式であるので炭化コンデンサを受け入れても何ら支障はない。

次に、小型電気機器だが、近畿2府4県の安定器などは北九州事業所で処理をすることになった。ただしそのうち、安定器等・汚染物には、小型電気機器が含まれていて、10キロ以下のものを小型電気機器として定義している。そのうち3キロから10キロの間の小型電気機器の中でも、コンデンサのような形をしているものがある。そういったものであれば、大阪事業所でも処理が可能なので自ら処理をしようということと特別に書いてあるというのはそういう意味である。

それから、ベンゼンは最近値が下がったということで、これは1つはベンゼンを排気する配管、ここが長年の排気によりベンゼンが沈着したというふうにも考え、そこの配管の中を清掃した結果、それ以降、下がっているというのが今日まで続いているという結果だと思う。

(外部有識者) 平成27年度の処理実績は、昨年と比べると運転期間からすると3分の1ぐらいという説明だが、4ページのVTRの運転状況で、バッチ数で今年全部で549バッチの計画で、4月から7月までやられたのを全部足すと160ぐらいで、3分の1にいかないがどう考えたらいいのか。

2点目が7ページの緊急時の対応訓練の実施状況で、毎月1回やられているが、実際の訓練はグループごとにやられているので、例えばグループが何グループあるのかという話と、それぞれの作業員

というのは年間何回ぐらい緊急時の対応訓練に参加されているのか。

3点目は9ページのキガカリの件数で環境とかというものが28件あるがこの環境というのは作業場外のお話なのかどうか、どういうものをキガカリの環境というのでカテゴリをつくられているのか。

あと4点目は23ページの作業環境測定の結果で、ダイオキシンの数字が粉塵+ガスで全部出して、2つか3つだけ括弧して粉塵量という話だが、粉塵中のダイオキシン濃度を測定してこの数字というふうにまとめられているのか。ほかの地点との違いみたいなことをどういうふうに分けて測定しているのか。

(J E S C O) 1点目で今年度の処理の実績が7月までなので約3分の1だが、3分の1に至っていないというご質問で、まずVTRはA、B、C、Dと4基あるが、去年D号機の熱交換器のチューブに支障が出て、昨年10月から今年の5月まで停止していた。4基中1基が停止をしたということで、26年度の実績もその分下がっている。それから27年度も4月、5月が1基停止していたということと、それから27年度から運転廃棄物を本格的に処理しようということで、運転廃棄物に充てるバッチ数が非常に多く計画をしている。その結果、営業物としての処理、年間の3分の1が経過しているが3分の1の実績が上がっていないというのは、以上の2つの原因があるということである。

2つ目の緊急時対応訓練の実施状況についてだが、グループについては、中央運転制御グループ、検査解体グループ、液処理グループ、分析グループ、保全グループ、VTRグループ、安全グループ、環境管理グループがありそれぞれ年に一、二回は必ず順番が回ってくる。それからJ E S C O、運転会社の社長以下、スタッフについては、毎月参加しているという状況である。それから全体でやる訓練が年に3回ある。従って、全体でやっているのが年3回、各グループごとにやっているのがそのほかの月ということになっている。

3つ目の9ページのキガカリの環境というのは、決して外へ漏れたとか、そういうことではなくて、例えばヒヤッとしたというのは、マスクがちょっと破れていたとか、そういうものをひっくめて入れているというのが中身であると考えられるが、もう少し具体的にどのような報告があるかについて、一回精査したいと思う。

4点目のダイオキシンのご質問で、一番直近に測ったのが27年6月、7月で、一番右端の欄、これの鍵括弧があるのが、ご指摘のように粉塵由来のダイオキシンである。大型・小型解体室しかやっていないのかについては、解体のところはトランスを切ったり、中身

のコアを解体したりというようなことで、粉塵が舞う環境にあるので、粉塵由来のダイオキシンなのか、それともPCB由来のダイオキシンなのか見きわめたいために特別に測っている。

(外部有識者) 長期保全計画のほうで、今後いろいろな主要項目の見直しとか工事とかがあるかと思うが、実際の処理費用、いわゆる廃棄物処理に反映されることはないのか。国の例えば補助とかそういったものも含めてあるのか。

(JESCO) 環境省の補助を受けて施設整備している。処理費用には反映させないということで対応している。

(外部有識者) 27ページの搬出困難なトランスの搬出促進のための現場対応で、現場で抜油をしてトランスを切断する時にグリーンハウスは負圧にした状態でPCBを環境中に排出しないという形でやられていると思うが、周辺環境への影響で作業時にPCBの測定はされているのか。

(JESCO) 作業をやる際には、トランスの周りにグリーンハウスを設置して、その作業の空気が部屋に拡散しないように措置をとっている。PCBの測定場所はグリーンハウスの中、それから外、それからもう1カ所はグリーンハウスの中の空気は局所排気で引っ張って活性炭を通して建物の排気口に出すという流れになっていて、この活性炭を通った後の空気を測っている。

(2) 本市から環境モニタリング調査について説明を行い意見等はなかった。

(3) 環境省からPCB廃棄物処理基本計画に基づく取組の進捗状況と今後の課題等について説明があり次の意見等があった。

〈意見等の概要〉

(外部有識者) 近畿地区の掘り起こし調査の見通しというのは今、どのような状況と考えてよろしいのか。

(大阪市) 昨年の国のPCB廃棄物処理基本計画の変更を受けて、各自治体のほうで掘り起こし調査の予算要求が行われ、調査が本格化していく状況である。大阪市でいうと、平成25年度に環境省で全国的に何カ所かで掘り起こし調査ということで、電気事業法に基づく届け出をされている事業者に対してアンケート調査を大阪市域でもやってほしいということで手を挙げて、大阪市域での調査をした。市内事業所2万6,000事業者が電気事業法の届け出されており、約半数の回答があり、その中でもやはり届け出、PCB廃棄物を保管はしているけれども未届け、届け出をしていないところも確かに何社もあり、そ

れについて昨年度、そういった回答のあったところ、保管しているけれども未届けだという事業者の方に対して電話等、連絡をとり随時届け出をするようにということで、取り組みを行っている。

(環 境 省) 昨年の12月時点で掘り起し調査の実施アンケートをさせてもらい大阪市は調査を実施、残りの関西地区の自治体は実施予定としてカウントされている。

(外部有識者) 掘り起こし調査の主体というのは、廃棄物担当部局がやられているという話だが、電気事業のほうで詳しい人がやったほうが早いと思う。環境省が主体でやるというのは限界があると思う。

(環 境 省) ご指摘のとおりで、このために掘り起こし調査も含めて、基本計画改訂以降、経済産業省、あるいは電気保安関係の事業者、例えば電気保安協会、電気管理技術者協会というのが、まさに電気事業法に基づいて電気機器に定期点検に行くような人たちですけれども、そういった方々との連携体制を強化するような会議の場も今年から設けさせていただいている。この調査自体は経済産業省で持っているデータを活用しながら、あるいは事業者に対する指導も都道府県、あるいは環境省のみならず、経済産業省も同様に指導していくということは、既にその会議の中でもそういった意識を共有している。

6 会議資料

資料（1）大阪 PCB 廃棄物処理事業の操業状況について

資料（2）平成 27 年度環境モニタリング調査について

資料（3）P C B 廃棄物処理基本計画に基づく取組の進捗状況と今後の課題等について

第5回大阪PCB廃棄物処理事業監視部会出席者名簿

府県市名	所 属	職 名	氏 名
滋賀県	琵琶湖環境部 循環社会推進課	室長補佐	河合 克彦
大津市	環境部 産業廃棄物対策課	課 長	山 本 哲
京都府	環境部 循環型社会推進課	課 長 技 師	尾形 順司 西岡 和久
京都市	環境政策局循環型社会推進部 廃棄物指導課	担当課長	大西 互
大阪府	環境農林水産部環境管理室 事業所指導課	課 長 課長補佐	児林 宏之 阿部 恭司
堺市	環境局環境保全部 環境対策課	課長補佐	是常 文和
東大阪市	環境部 産業廃棄物対策課	課 長	本江 正興
高槻市	産業環境部 資源循環推進課	主 査	大橋 史明
豊中市	環境部 減量推進課	主 幹	澤田 宏三
枚方市	環境保全部 産業廃棄物指導課	課 長	喜多 利英
兵庫県	農政環境部環境管理局 環境整備課	課 長	正賀 充
神戸市	環境局 事業系廃棄物対策部	施設担当課長	斉藤 博之
姫路市	環境局美化部産業廃棄物対策課	主 任	萩原 靖生
尼崎市	経済環境局環境部 産業廃棄物対策担当	課 長	後藤 修志
西宮市	産業環境局環境部 産業廃棄物対策課	課 長	塚本 哲也
奈良県	くらし創造部景観・環境局 廃棄物対策課	課長補佐	村中 幸雄
奈良市	環境部 産業廃棄物対策課	主 幹	布田 晴久
和歌山県	環境生活部環境政策局 循環型社会推進課		(欠席)
和歌山市	市民環境局環境事業部 産業廃棄物課	事務主査	郡 泰寛
大阪市 (事務局)	環境局環境管理部環境管理課 産業廃棄物規制担当	部 長 課 長 課長代理 係 長 係 員	岩橋 潔 有門 貴 谷野 寛 中尾 寿伸 高木 慶大